

## 再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

担当課：道路局高速道路課

担当課長名：吉岡 幹夫

事業名	第二東海自動車道 えびなみなみ はだの (海老名南 JCT～秦野)		事業区分	高速自動車国道	事業主体	中日本高速道路(株)
起終点	自) 神奈川県海老名市中野 えびな なかの 至) 神奈川県秦野市八沢 はだの はっさわ			延長	2.1 km	
事業概要						
第二東海自動車道は第二名神高速道路と一体となって、三大都市圏を相互に結び、人の交流と物流を支える大動脈として、日本経済を牽引するとともに、東名・名神高速道路の代替機能を果たす上で不可欠な路線である。						
H10年度事業化		H8年度都市計画決定		H10年度用地着手		H20年度工事着手
全体事業費	約7,331億円		事業進捗率	22%	供用済延長	0 km
計画交通量	17,100台/日～55,400台/日					
費用対効果 分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年		
	(事業全体) 1.6 (残事業) 2.4	(残事業)/(事業全体) 4,415/6,918億円 事業費：4,142/6,645億円 維持管理費：273/273億円	(残事業)/(事業全体) 10,777/10,777億円 走行時間短縮便益：9,855/9,855億円 走行費用減少便益：726/726億円 交通事故減少便益：196/196億円	平成26年		
感度分析の結果						
				残事業について感度分析を実施		
交通量変動	: B/C=2.2～2.7 (交通量 ±10%)					
事業費変動	: B/C=2.2～2.7 (事業費 ±10%)					
事業期間変動	: B/C=2.3～2.5 (事業期間 ±1年)					
事業の効果等						
<ul style="list-style-type: none"> <li>円滑なモビリティの確保（並行区間等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる）</li> <li>国土・地域ネットワークの構築（当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する）</li> <li>災害への備え（緊急輸送路が通行止めになった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する）</li> </ul> <p style="text-align: right;">他12項目に該当</p>						
関係する地方公共団体等の意見						
<p>＜神奈川県＞第二東海自動車道（新東名高速道路）は、東名高速道路の慢性的な渋滞や多発する事故などを解消し、我が国の社会経済活動の根底を担う第二の国土軸であり、また、東名高速道路とのダブルネットワークを形成することにより、切迫する東海地震などの大規模災害時の代替性の確保、緊急輸送路としての機能を有するなど極めて重要な路線である。</p> <p>さらに、沿線には既に多くの企業が進出しており、本路線の整備は、県民や企業の期待も大きい。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を受けて、早期整備が必要である。</p>						
事業評価監視委員会の意見						
対応方針（原案）のとおり了承。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等						
<ul style="list-style-type: none"> <li>前回の再評価時以降、厚木～大井松田では、一日あたりの平均交通量多い状況が継続している。</li> <li>また、休日や交通混雑期を中心に渋滞が発生している</li> </ul>						
事業の進捗状況、残事業の内容等						
用地取得及び工事実施中						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等						
今後も引き続き工事の推進を図る予定。						
施設の構造や工法の変更等						
新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。						
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由						
以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。						

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。